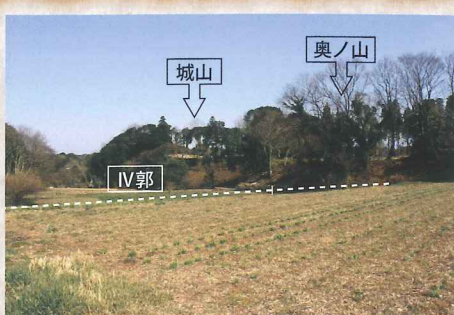




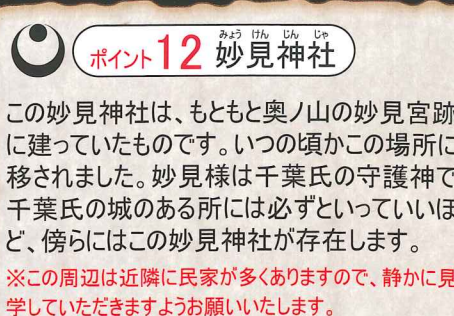
**ポイント10 奥ノ山**

奥ノ山は別名妙見郭とも呼ばれています。発掘調査によって14m四方の一段高い基壇(きだん)が見つかっており妙見宮の跡と思われます。本佐倉城の5代と8代の城主はここで元服しました。妙見様は千葉氏の守護神です。



**ポイント11 倉跡**

倉跡は3段になっています。内郭群7郭のうち最も広い郭です。炭化米が見つかっており、倉が建っていたと思われます。  
※この場所はポイント11よりセツテイ方向に入った所です。



**ポイント12 妙見神社**

この妙見神社は、もともと奥ノ山の妙見宮跡に建っていたものです。いつの頃かこの場所に移されました。妙見様は千葉氏の守護神で、千葉氏の城のある所には必ずといっていいほど、傍らにはこの妙見神社が存在します。  
※この周辺は近隣に民家が多くありますので、静かに見学していただきますようお願いいたします。



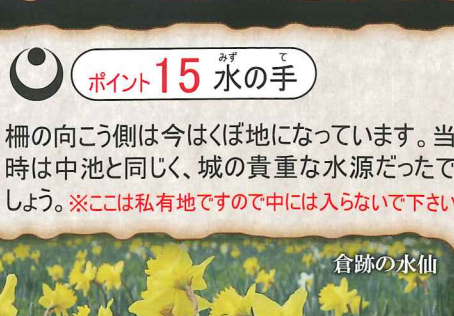
**ポイント13 中池**

この場所は以前は中池と呼ばれる池と中島があり、弁天様が祭られていました。戦国時代には城内部の貴重な水源となっていたでしょう。現在、弁天様は根古谷の館の脇にあります。



**ポイント14 本佐倉城跡鳥瞰図**

根古谷の館の入口に、本佐倉城跡の鳥瞰図イラストがあります。イラストとその背後に見える城跡を見比べてみてください。



**ポイント15 水の手**

籾の向こう側は今はいくぼ地になっています。当時は中池と同じく、城の貴重な水源だったでしょう。※ここは私有地です中には入らないで下さい。



**ポイント16 セツテイ空堀**

この空堀は本佐倉城跡の中でも最も大規模な空堀です。セツテイ山は人質曲輪とも、接待館郭とも推測されています。大規模な空堀は警戒を厳重にするための策だったのでしょうか。



**ポイント18 竹林の小径**

金明竹とは真竹の一種で節と節の間に緑と薄い黄色が縞模様のように表れているもので、このあたりだけに群生しています。※このあたりの竹林は大切に育てていますのでむやみに採らないで下さい。



**ポイント20 南奥虎口**

南奥虎口は東山虎口と同じく城北側の玄関口です。発掘調査によって木戸跡や柵列跡、通路跡などがみついています。当時は柵列と木戸によって、虎口内部は見えなくなっていました。

**◆国史跡本佐倉城跡**  
所在 千葉県印旛郡酒々井町本佐倉  
千葉県佐倉市大佐倉  
交通 京成酒々井駅より 徒歩20分  
JR酒々井駅より 徒歩25分  
京成大佐倉駅より 徒歩10分  
東関東佐倉インターより車10分(約6km)

**◆お問い合わせ先**  
酒々井町教育委員会 生涯学習課  
〒285-0922  
千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1  
TEL. 043-496-5334  
佐倉市教育委員会 文化課  
〒285-8501  
千葉県佐倉市海隣寺町97  
TEL. 043-484-6192 (直通)

発行 / 酒々井町  
<http://www.town.shisui.chiba.jp/>  
Design&Illustration 川口マナミ



**ポイント17 セツテイ虎口**

セツテイへと進入するための出入口です。土塁と土塁の間には(発掘調査は行われていませんが)、門や塀などの施設があったものと思われる。



**ポイント19 倉跡-セツテイ空堀**

ここは、倉跡とセツテイ山を分ける空堀です。今、立っている場所は堀の底です。堀底を進むにもまっすぐ見通せないように、曲がりくねって作られている様子が見えます。



**ポイント20 南奥虎口**

南奥虎口は東山虎口と同じく城北側の玄関口です。発掘調査によって木戸跡や柵列跡、通路跡などがみついています。当時は柵列と木戸によって、虎口内部は見えなくなっていました。



本佐倉城跡は今から約500年前(西暦1470年前後)に造られた中世戦国時代の城跡です。城の主は千葉氏一族、約100年間で9代の城主が本佐倉城を本拠地としました。治めていた国は下総国一国(現在の千葉県北部と茨城県南部)で、関東でも有数の名族でした。

しかし、豊臣秀吉の天下統一により、敵対していた千葉氏は滅亡し、主を亡くした本佐倉城はここから長い眠りにつきます。

そして、400年の時が過ぎました。本佐倉城はその間ひっそりと眠り続け、ほぼ当時のままの姿で今、再び目覚めようとしているのです。

ぜひ、みなさんの足で城の中を歩いてみてください。



# 散策ルート

## ポイント1 東山虎口と南奥虎口



本佐倉城跡の北側(印旛沼側)に広がる東光寺ビヨウを経て、城の玄関口となる東山虎口に至ります。虎口内部の発掘調査では、通路跡や門跡・柵列跡が見つっています。

## ポイント2 東山虎口



東山虎口は2つの門と蛇行した狭い通路、内柵(うちます)形の長方形の空間によって、非常に厳重に守られているのが分かります。東山虎口を抜けると左側に東山馬場が広がります。

## ポイント3 ビューポイント



ここは遥か遠くには筑波山まで望める、見張りには絶好の場所です。印旛沼は当時、京成線のすぐ北側までできていました。沼から城までの間は湿地になり、敵の侵入を阻んでいました。

## ポイント4 IV郭虎口



ここはIV郭虎口です。現道となっている堀底道を登って行くと、上りきった所に堀跡と、堀跡の先には門跡が見つかりました。写真は発掘調査当時のもので、推測で堀と門を復元しています。

## ポイント5 大堀切



大堀切は城山と奥ノ山を分ける堀切です。両郭との高低差は6m程あります。スロープを登りきった場所が平らになっていて、門跡が見つっています。

## ポイント6 城山通路



ここは城山へ登るための唯一の通路です。通路幅は180cm、砂によって舗装されていました。勾配の急な坂道を何度も蛇行して登るのは、敵が攻めてきた時に、登りつらくする工夫です。

## ポイント7 城山虎口

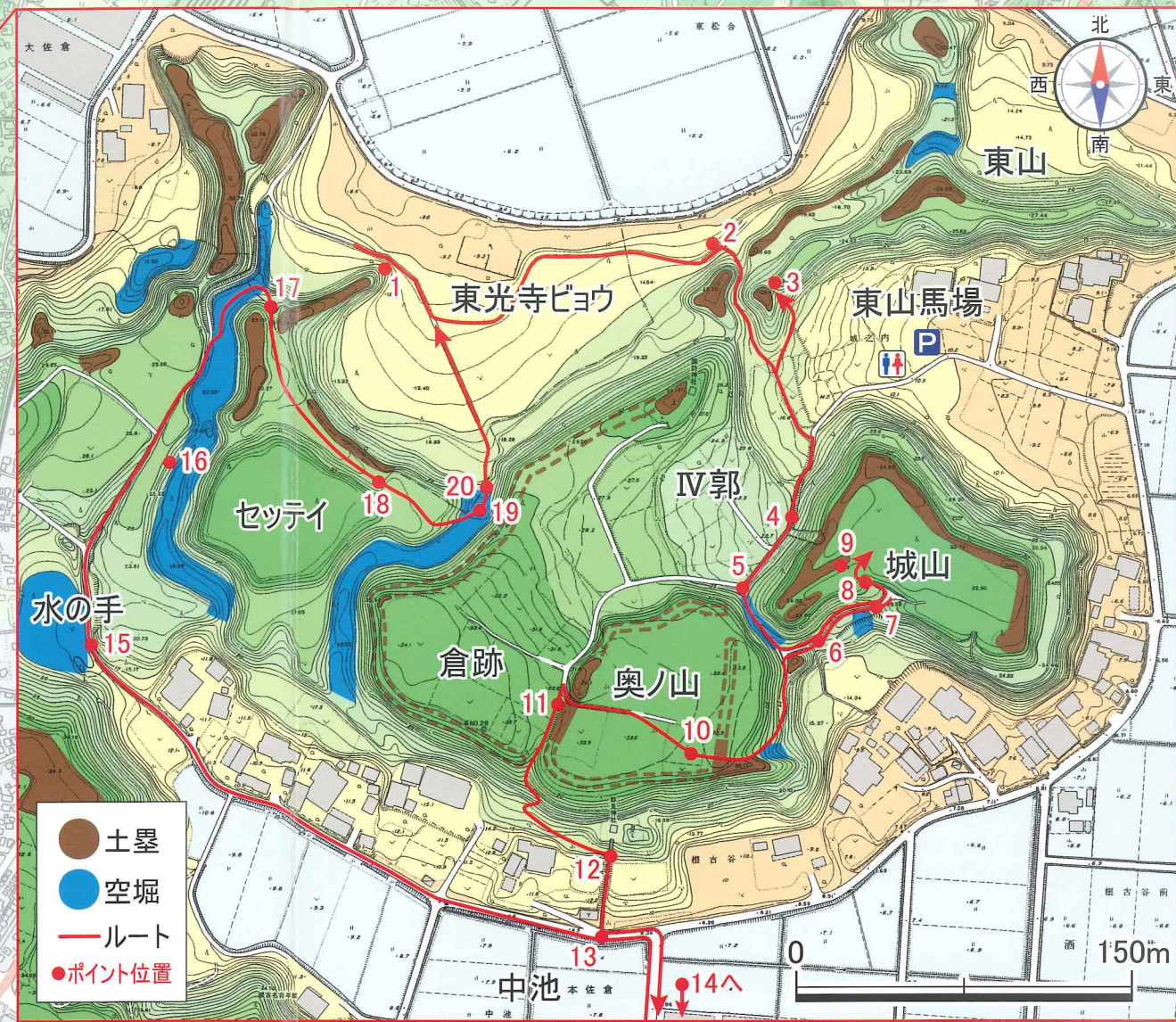


城山へ入るための出入口施設です。通路は登り坂、門を入ると目の前は土の壁にぶつかり、直角に左へ曲がります。このような虎口を「左折れの坂虎口」といいます。

## ポイント8 城山門跡



発掘調査により門跡や堀跡、通路跡が見つかりました。この門を入ると、ようやく城山内部へ進入できる最後の門です。ここまで来るのにいくつの門をくぐったか覚えてますか？



QR このマークがある見学ポイントにはQRコードが設置されています。



本佐倉城跡は内郭群7郭、外郭群3郭からできています。周囲には、東に酒々井宿、南に本佐倉宿、西に鹿島宿、北に浜宿湊が所在し、城は城下町を含む三重の同心円状の「総構(そうがまえ)」で構成されます。

城山(I郭)..... 城主の執務・接待	東光寺ビヨウ(VI郭)..... 利用不明の郭
奥の山(II郭)..... 儀式・儀礼	セツテイ(VII郭)..... 接待館・人質館
倉跡(III郭)..... 倉庫群	荒上(VIII郭)..... 侍屋敷
IV郭..... 利用不明の郭	向根古谷(IX郭)..... 侍屋敷
東山馬場(V郭)..... 馬の飼育	佐倉根小屋(X郭)..... 侍屋敷

## ポイント9 城山



城山郭は城主のための空間です。主殿で来客を迎えたり、会所で庭を眺めながら、宴会を催したりしていたことでしょう。その他の建物として、台所や倉庫があったと思われます。

本佐倉城は中世から現代まで、早くからの保存運動も功をそうし、多くの緑を抱えたまま奇跡的にその形が残され、平成10年に国指定史跡となりました。私達はこれからもこの財産を守っていかねばなりません。その為、散策される皆様におかれましては、どうぞ、むやみに地形をくずしたり、自生している草花をつんだりせず、マナーを守って気持ちよく歩いていただきますよう、お願いいたします。